

冬の特集展

発掘ガール

「郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」

会期 平成27年2月7日(土) ～ 3月22日(日)



発掘調査風景（土の表面をていねいに削って建物の跡を探しています）

郡山女子大学短期大学部文化学科では、福島県立博物館の表面調査によって発見された笹山原No.16遺跡（会津若松市）の発掘調査を2001年以来、考古学実習として継続して行ってきました。

笹山原No.16遺跡の調査では、当初の目的としていた後期旧石器時代前半期をはじめとして、その後の縄文時代や平安時代の遺構や遺物が広範囲にわたって発見されました。調査結果の詳細な検討から、縄文時代前期や平安時代の会津地方における土器作りのようすが具体的に浮かび上がってきたり、縄文時代前期のムラのように見えてきたりしています。

後期旧石器時代前半期には3ヶ所の石器集中地点を確認し、石器の製作工程がわかる多くの資料を得ることができました。ここから発見された石器にはさまざまな石材が使われており、山形県地方でしか入手できない石材も含まれていることから、笹山原の旧石器人たちは、会津地方から遠く離れた山形県地方まで移動しながら生活していたことがわかります。また、これらの石器群は放射性炭素年代測定により約2万8千年前のものであることが明らかとなり、会津地方では最古の石器群であることもわかりました。

縄文時代前期（今から約6千年前）は日本列島全域で人々が定住し始めた時期で、各地に集落が形成されました。笹山原遺跡は竪穴建物、土坑、集石墓など、小規模ながらも集落の様子を確認できる良好な資料を得ることができました。また、出土した縄文時代の石器を見ると、動物の狩りに使った石鏃・石槍、動物の毛皮を加工した石篋・搔器、樹木を伐採した磨製石斧、木の実の加工に使った石皿・磨石、網のおもりに使った石錘などが見られ、縄文人が植物資源を中心に水産資源・動物資源などの自然の恵みを上手に利用しながら生活していたことがわかります。さらに、縄文土器の中には焼成中に破損したと思われる土器片や縄文土器を焼いたと考えられる穴などが確認され、このムラの中で縄文土器が製作されて



平安時代の土師器



後期旧石器時代前半期の石器

いたこともわかりました。

平安時代には土師器生産を担った集落が発見されており、材料の粘土をはじめ、粘土採掘穴、ロク口を用いた土師器製作工房として使われた竪穴建物、土師器の焼成遺構などが確認されています。しかも、粘土貯蔵穴↓土師器製作工房↓乾燥庫（推定）↓土師器焼成遺構↓土師器貯蔵庫（推定）↓廃棄場（焼成不良品廃棄）と土師器の製作工程がわかるような配置で遺構が見つかっていることも興味深いです。さらに、製作された煮炊き用の甕を見ると、当時の浜・中通りの作り方と新潟県地方の作り方の両方が見られ、会津地方が東西の土器づくりの技術が交流する地域であったことも分かりました。

今回の展覧会では、これらの調査成果について、調査に実際に携わった大学生を中心に展示や解説を行います。発掘ガールたちの活躍に御期待ください。

○関連行事

【記念講演会】

演題 「発掘ガールに囲まれて―私の考古学―」

講師 郡山女子大学短期大学部 准教授 會田容弘氏

日時 平成27年3月8日（日） 13時30分

場所 当館講堂

【学生による展示解説会】（2回）

日時 ①平成27年2月7日（土） 13時30分

②平成27年3月8日（日） 記念講演会終了後

場所 当館企画展示室

講師 郡山女子大学短期大学部文化学科・専攻科文化化学専攻 学生有志

○展覧会基礎情報

開館時間 9時30分～17時00分（16時30分までに入館）

休館日 月曜日、2月12日（木）

会場 福島県立博物館企画展示室

観覧料 無料

主催 郡山女子大学短期大学部 福島県立博物館

○展示構成

はじめに

第1章 発掘ガール始動！

第1部…麗し乙女、発掘開始―2014年の笹山原No.16遺跡の調査―

第2部…発掘14年の軌跡―文化学科発掘14年の想い出―

第3部…整理作業の全貌―遺物からのメッセージ―

第2章 調査研究の成果

第1部…平安時代の笹山原集落―約千年前のササヤマハラ

第2部…縄文時代の笹山原ムラ―約5千7百年前のササヤマハラ

第3部…旧石器時代の笹山原―約2万8千年前のササヤマハラ

おわりに

特別展

「東日本大震災復興祈念 みちのくの観音さま
〜人に寄り添うみほとけ〜」学校連携事業

特別展に関連して、学校連携事業を開催しました。その概要を紹介します。



湯川村立勝常小学校6年生代表のみなさんの調べ学習の成果発表の様子

●オープニングセレモニー

期日：平成26年11月1日（土）

湯川村立勝常小学校6年生代表のみなさんに、勝常寺や十一面観音について学んだ日頃の調べ学習の成果を発表していただきました。

●展示見学会

期日：平成26年11月14日（金）

湯川村立勝常小学校 4年生
湯川村立勝常小学校 4・6年生

期日：平成26年12月3日（水）

郡山市立湖南小学校 5・6年生

期日：平成26年12月5日（金）

福島県立船引高等学校 2・3年生



展示見学会の様子

特別展「みちのくの観音さま」学校連携事業として、11月の特別展開幕前に県内の小・中学校や高校より多大な協力をいただき、特別展の事前学習をねらいとして当館学芸員による出張授業を実施させていただきました。「観音さま」により関心を持っていただけたよう、総合的な学習の時間や授業の単元と関連付けながら、地域の文化財を紹介するような授業実践に努めました。そのまめとして、実際にご来館いただき、学芸員の解説を聞きながら特別展を見学していただく「展示見学会」を3回実施いたしました。

展示会場では、担当学芸員の解説を聞きながら、熱心にメモをとったり、観音菩薩像をスケッチしたりと、児童・生徒のみなさんのとても積極的な姿勢が印象的でした。展示会場の前半「第1章 観音菩薩のすがた」では、観音菩薩が、悩み苦しむ人々を救うために、人間世界にさまざまな姿に変化して現れるという点に、深い興味関心を持っていただいた様子が、アンケートや感想文から読み取ることができました。後半の「第2章 観音菩薩への祈り」では、時代を経るにつれて一般庶民にまで広まりをみせた観音信仰を物語る資料を御覧いただきました。特に、荒天に遭遇した船乗りが鬚を切って無事を祈り、生還後に絵馬にして奉納した「鬚絵馬」や、安産・成長祈願のため奉納された華やかな「傘福」などが注目を集めていました。歌詠みの風景を映像で流しているコーナーで、「これ聞いたことある」との声もあがっていたように、身近な存在としての観音様を実感いただけたのではないのでしょうか。

今後も観音様をはじめ、身近な地域の貴重な文化財や古くから伝わる信仰に対して、さらに深い関心をもっていただく機会となりました。

（歴史担当 田中伸一）

発掘ガール

郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡

Q:「発掘ガール」の一番の見どころを教えてください

今回の展示では、郡山女子大学短期大学部文化学科がこれまで14年間に渡り発掘調査を行ってきた笹山原No.16遺跡(会津若松市)の調査成果について紹介します。

これまでの調査から旧石器時代(今から2万8千年前、縄文時代(今から5千7百年前)、平安時代(今から千年前)の3つの時代に関して、当時の人々の生活の姿を具体的にイメージできるような重要な発見がありました。その中でも特に旧石器時代の調査成果は興味深いものが多いことから旧石器時代の展示内容について紹介します。

何ととっても、この遺跡から発見されているナイフ形石器は会津地方最古のもので、今から約2万5千年前には九州鹿児島にある始良火山が爆発しますが、この噴火は非常に激しかったようです。その火山灰は成層圏にも達したと言われ、広く日本列島だけでなく朝鮮半島にも降下しています。この火山灰(AT:始良丹沢バミ)は福島県内全域で確認されており、福島県内の旧石器時代の遺跡の新旧を比較するのに指標となっている火山灰の堆積層です。笹山原No.16遺跡でも確認されていますが、この遺跡から発見される一番古い石器群は、このATよりも下層で発見されることから2万5千年より以前の石器であることが地層の観察から分かります。さらに、地層に含まれる炭をもとにした科学的分析から今から約2万8千年前のものであることが分かりました。ATより下層



笹山原遺跡No.16地層断面剥ぎ取り

→石器が出土する地層

から発見される石器群は少なく、県内の旧石器時代の人々がどのような石器を、どんな方法で作っていたのか、また石器をどのように使っていたのかを明

らかにしていく上で貴重な資料です。

展示されている石器を見比べてみると、いろいろな石材を使って石器を作っていたことが分かります。特に、きめの細かい茶色の石材は硬質頁岩と言って石器を作るのに適した石材で、県内の旧石器時代の遺跡ではしばしば見ることが出来ます。この石材は山形県の最上川流域で採取できるもので、硬質頁岩製の石器を作った人たちは山形県地方まで行って石材を入手したと考えられます。県内の旧石器時代の遺跡では住居跡がほとんど発見されないことから、おそらく旧石器時代の人たちはまだ定住せずに大型動物などを追いかけてキャンプをしながら移動生活をしていたと考えられています。笹山原No.16遺跡に石器を残した人たちは福島県から山形県にかけて広い範囲を移動しながら生活をしていたと考えられます。

Q&A

回答者 考古分野 荒木 隆

Q:笹山原No.16遺跡の縄文時代の見どころも、教えてください。



焼成中に破損して焼き色が変わってしまった土器(左側の破片だけ明るい色に焼けている。)

今回の調査では、縄文時代前期(今から約6,000年前)の土器作りに関する興味深い情報も得られていますので、それを紹介します。

縄文時代前期は各地に集落が形成され人々が定住し始めた時期ですが、笹山原No.16遺跡でも竪穴建物、食べ物を蓋えた土坑、集石墓などが発見されており、小規模ながらも集落が形成されていたことが分かりました。集落のゴミ捨て場から出土する土器には、焼成中の破損により焼き色が変わってしまった土器片があります。さらに集落の中から縄文土器を焼

いた穴などが確認され、このムラの中で縄文土器が製作されていたことが分かります。また、土器の中に石器の破片が混じっているものがあります。この破片は土器を作る粘土に混じって土器の中に取り込まれたものですが、使われている粘土は笹山原No.16遺跡の4b層によく似た粘土です。4b層は先ほどの後期旧石器時代の石器が含まれる層で、土器の中に含まれている破片と同じものがたくさん含まれています。おそらく、縄文時代前期の笹山原の人々は地元の粘土を採取して縄文土器を作っていたのでしょう。調査区の中からは粘土採掘穴と考えられる溝も見つかっています。

Q:笹山原No.16遺跡の平安時代の見どころも、教えてください。

縄文時代前期で土器作りが行われたように、笹山原で採れる粘土はやきものに適していたでしょう。平安時代にも土器(土師器)作りが行われていました。調査区の中からは、材料の粘土をはじめ、粘土採掘穴、ロクロを用いた土師器製作工房として使われた竪穴建物、土師器の焼成遺構などが確認されています。しかも、緻密な調査により粘土貯蔵場↓土師器製作場↓乾燥場(推定)↓焼成遺構↓貯蔵場(推定)↓廃棄場と土師器の製作工程がわかるように施設が配置されていることも分かりました。

土器を焼いた穴(土器焼成遺構)は直径約1.5mのほぼ円形にやや窪んだ部分に焼けた土が溜まっているもので、薬剤を使って固めて現地から取り上げてきたものを展示室に展示しています。平安時代の土器焼き場の現物を是非ご覧ください。

さらに、製作された煮炊き用の甕を見ると、当時の浜・中通りに共通する東北地方の作り方と新潟県地方の作り方の両方が見られ、会津地方が東西の土器づくりの技術が交流する地域であったことも分かります。底が丸くて表面に叩いた筋状の模様が付くのが北陸風、底が平らで器の下半分が縦に薄く削られているのが東北風です。展示室で両方の土器を是非見比べて、磐越道沿いに広がる平安時代の人々の交流に想いを馳せてみませんか。

女性の祈りと吊るし飾り

—会津のカサボコ—

内山大介 民俗担当

東北歴史博物館と共催の特別展「みちのくの観音さま人に寄り添うみほとけ」では、観音への祈りを示す資料として、山形酒田の「傘福」や会津の「カサボコ」という吊るし飾りに注目しました。これは一見吊るし雛のようですが、安産や子どもの成長を願い、観音堂や地藏堂に吊るされる奉納品です。

最近では、山形酒田の「傘福」・伊豆稲取の「雛のつるし飾り」・福岡柳川の「さげもん」が日本三大吊るし飾りとして有名になり、特に桃の節句の三月を中心に多くの観光客を集めています。中でも特徴的なのが展覧会でもご紹介した酒田の傘福で、こちらは古くから酒田の山王祭りに巡行する山車(だし)の上に飾られたり、名家の雛飾りとして、そして観音堂や地藏堂の奉納品として伝えられてきたものです。縁に綺麗な幕を張った和傘の骨組みから何本も糸を垂らし、そこに様々な細工物が吊るされた傘福は、展覧会でも多くの方々の目にとまったようです。災いが去るといふ「猿っこ」や、子沢山を表すブドウ、男性の象徴であるキノコなど、安産や子どもの健やかな成長への祈りがそれぞれの細工物に込められています。

そして、会津地方にもカサボコ(傘鉾)とよばれる同様の吊るし飾りが伝えられています。これも子育て・安産祈願のために奉納されるものですが、会津では観音堂や地藏堂、さらに安産・子育ての守護神であるオンバサマ(姥神)のお堂などにみられます。また酒田との違いは、和傘を使わずに竹で作られた輪に幕を垂らし、そこに細工物を吊るすというところで、お堂の中で対で奉納されることの多い傘福に対し、会津では

お堂の天井に多数のカサボコが吊り下げられるという特徴があります。当館でも開館以来、民俗の部門展示室に郡山市湖南町館のカサボコを展示してきました。館地区には地藏堂と飯盛寺観音堂に多くのカサボコがみられます。安産祈願で有名な猪苗代町関都の優婆夷堂(オンバサマ)にも巨大なカサボコがあり、大きな人形も吊り下げられて参拝者の目をひく奉納品となっています。



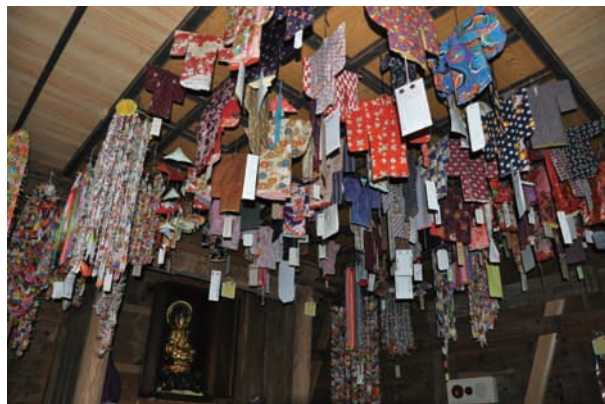
飯盛寺観音堂のカサボコ

このように猪苗代湖周辺に多くみられるカサボコですが、会津盆地周辺でも事例が分かってきました。例えば北会津町安良田の東泉寺では、平成十九年に地域の観音講の女性の方々が古くなったカサボコを作り直して奉納しました。湯川村笠の目地区の薬師堂では今年十一月に新たにカサボコが奉納され、それまで吊る



光福寺観音堂のカサボコ

されていた昭和五十四年奉納のカサボコは地域の信仰を示す文化財として県立博物館へご寄贈いただきました。会津若松市高野町沼木の光福寺観音堂では、安産祈願の三角の細工物を連ねたカサボコが奉納されています。会津のカサボコには小さな着物がよく吊るされますが、上に竹の輪をつけず、観音堂の天井から無数の小さな着物が吊り下げられているのが下郷町大内宿の観音堂です。こちらは毎年五月十七日の祭日以外は公開されていませんが、現在でも嫁入りされた方やそのお姑さんたちが安産を願って小さな着物を奉納しています。



大内観音堂に吊るされた着物

古くから会津の女性たちは、子宝・安産・子どもの成長を願い、地域のお堂にこのようなカサボコや吊るし飾りを奉納してきました。古くなったものは小正月の「サイの神」でお炊き上げされることが多いようですが、まだ知られていないものも各所に残っていると思われまます。もしご存知の方がいらっしやいましたら、県立博物館までご一報いただけると幸いです。

テーマ展 徹底解剖！会津板かるた



文久2年(1862)の板かるた 個人蔵(当館寄託)

会期：平成27年2月7日(土)～同年3月29日(日)

会場：常設展部門展示室 歴史・美術

観覧料：大人・大学生270円(常設展料金でご覧になれます)、高校生以下無料

新島八重が得意だったことも手伝って、最近注目を集めている、会津の遊び「板かるた」。現代と同じように取り札には小倉百人一首の下の句が書かれています。しかし取り札が木の板であること、そして読み手が上の句を読まずに下の句を読んだという遊び方が特徴です。

本展は小さな木札ばかりが集う地味な展示ですが、年代が特定できる中では恐らく最も古いもの(会津藩主松平容保が京都守護職になった頃)、ため息のするような流麗なくずし字で書かれたもの、たどたどしくも丁寧に書かれたもの、取りやすいようにかなをふってしまったもの、書き間違えて裏に書き直したもの、それからなんと百人一首でなく漢詩が書かれたかるたまで(教養がないと遊べません)、そのバリエーションをご覧ください。手作りのかるたの中に、きっと小さなドラマを感じていただけたと思います。(担当：阿部綾子)

企画展 予告

ふるさと会津の人と四季

— 福島県立美術館名品展Ⅰ(仮)

2014年に開館30周年を迎えた、福島市にある福島県立美術館は、近現代の欧米・日本の美術と県出身作家の作品を中心に、3千点以上の美術品を収蔵しています。

これらの収蔵作品を県内各地で気軽に鑑賞してもらおうと、今年度は、福島県立博物館にて会津出身・ゆかりの画家たちの名品展を開催いたします。

長い歴史を刻んできた会津地方では、美術愛好家の惜しめない支援もあり、美術を育む風土が近代以降も脈々と息づいています。こうして、日本画では湯田玉水、坂内青風、酒井三良など、水彩画では相田直彦、春日部たすく、渡部菊二など、個性あふれる画家たちを輩出しました。さらに、会津坂下町出身の齋藤清は、会津の風景を独自の造形感覚で表現し、戦後日本を代表する版画家となりました。

この展覧会は、会津の画家たちによる多彩な近代美術の魅力を、約50点の日本画、水彩画、版画により探っていきます。

豊かな風土が育んだ会津文化の地域性をご堪能いただけます。

(担当 川延安直)



酒井三良 雪に埋もれつつ正月はゆく(部分)

■会期：平成27年5月2日(土)～6月21日(日)

会場：福島県立博物館(企画展示室)

主催：福島県立美術館 福島県立博物館

特集展

※観覧無料

冬の特集展 郡山女子大学短期大学部共同開催企画展
 「発掘ガール―郡山女子大学短期大学部
 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡―」
 会期 2月7日(土)～3月22日(日)

特集展関連行事

特集展関連行事

「記念講演会『発掘ガールに囲まれて―私の考古学―』」

日時 3月8日(日) 13時30分
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 郡山女子大学短期大学部准教授 會田谷弘さん
 「学生による展示解説会」
 日時 2月7日(土) 13時30分
 3月8日(日) 講演会終了後
 会場 福島県立博物館 企画展示室
 講師 郡山女子大学短期大学部文化学科・
 専攻科文化学専攻 学生有志

特別講演会

「佐々木長生 学芸員半生を語る」
 日時 3月1日(日) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 佐々木長生

テーマ展

*常設展料金でご覧いただけます

「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」
 会期 H26年6月17日(火)～5月10日(日)
 「けんぱくの宝2014」
 会期 H26年12月20日(土)～2月1日(日)
 「徹底解剖！会津板かるた」
 会期 2月7日(土)～3月29日(日)

テーマ展関連行事

「かるた大会」
 日時 3月28日(土) 13時30分～(予定)
 会場 福島県立博物館

ポイント展

*常設展料金でご覧いただけます

「読み解き『戊辰戦記絵巻物』」
 会期 H26年4月19日(土)～2月1日(日)
 「ふくしまの火炎土器」
 会期 H26年7月23日(水)～3月15日(日)
 「これも弥生土器!?!」
 会期 H26年7月23日(水)～3月15日(日)
 「王様の玉飾り」
 会期 H26年9月2日(火)～3月15日(日)
 「約束の音色～聖武と嵯峨呂」
 会期 H26年9月2日(火)～3月15日(日)
 「火をめぐる昔の道具～明かりと暖房」
 会期 H26年12月18日(木)～2月4日(水)
 「火鉢となった版木たち」
 会期 H26年12月27日(土)～1月30日(金)
 「ふくしまの風」
 会期 2月13日(金)～3月18日(水)

館長講座

「はじまりの東北学」⑩
 日時 1月15日(木) 13時30分～14時30分
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 館長 赤坂憲雄
 「はじまりの東北学」⑪
 日時 2月26日(木) 13時30分～14時30分
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 館長 赤坂憲雄
 「はじまりの東北学」⑫
 日時 3月26日(木) 13時30分～14時30分
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

○考古学講座
 「考古学最前線4
 『Salon de Jonon』(サロン・ド・縄文)」
 日時 1月10日(土) 13時30分～
 会場 福島県立博物館 実習室

講師 学芸員 森幸彦

「考古学最前線5『Salon de Archaeology』
 (サロン・ド・アーケオロジー)」
 日時 3月22日(日) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 実習室
 講師 学芸員 藤原妃敏
 ※「勾玉・ガラス玉を作ろう」
 日時 3月29日(日) 10時～15時
 会場 福島県立博物館 実習室
 講師 学芸員 高橋満
 ○歴史講座
 「歴史の中の遊び1『あそびと馬』」
 日時 2月7日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 田中伸一
 「歴史の中の遊び2『会津の板かるた』」
 日時 2月21日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 阿部綾子

「歴史の中の遊び3『戦国武将の嗜み』」

日時 2月28日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 高橋充
 ○民俗講座
 「サイノカミと会津の小正月行事」
 日時 1月24日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 二瓶浩伸
 「わら人形の信仰と行事」
 日時 2月14日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 大里正樹
 「ひな行事と流し雛と吊るし雛」
 日時 3月21日(土) 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 講堂
 講師 学芸員 内山大介
 ○ギャラリートーク
 「テーマ展『ふるさとの考古資料5【富岡町】
 遺跡探訪』展示解説会」
 日時 1月11日(日) 3月8日(日)
 11時～11時30分

2月8日(日)

実演

「再現!!縄文時代の編み組み細工」
 日時 1月11日(日) 10時30分～12時
 13時30分～15時
 会場 福島県立博物館 体験学習室
 講師 バスケタリー作家 本間一恵さん

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
 *その他、行事等の詳細に関しましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

1月～3月の休館日

1月 1月1日(木)～5日(月)・1月13日(火)
 1月19日(月)・1月26日(月)
 2月 2月2日(月)・2月9日(月)・2月12日(木)
 2月16日(月)・2月23日(月)
 3月 3月2日(月)・3月9日(月)・3月16日(月)
 3月23日(月)・3月30日(月)